

追浜あんず通信

Oppama Anzu Press

第17号 2019年6月 発行:特定非営利活動法人 アクションおっぱま

第二海堡への上陸



天候の都合で昨年11月より伸び伸びとなっていた、第二海堡へ見学が実現、薄曇りの2月26日(火)午後からNPO理事6名で上陸してきた。栈橋は3か所、我々が上陸したところは未完成で足許は確保されてはいなかった。しかし、観光ツアー開始時は安全な栈橋を利用することになっている。長年の波浪、災害で沈みこんでいた特徴的な外壁はほぼ修復され、2メートル強の高さにコンクリートの壁が周りを囲んで出来ている。近年利用している海上保安庁や消防庁の設備と燈台(保安庁の施設)があるが当時の構造物は残っていない。地下通路(地中に埋没)、砲台の台座跡、構造物の倒壊した塊等が保管されて

いる。コース順路、案内板は無かった。しかし整然と続くフランス積みレンガの壁に錆びた器具が張り付き、地面から飛び出ている残骸には生々しさと高度な技術の片りんを見ることができた。レンガには「小菅囚治監」で製造の刻印もあった。観光ツアーが実施される頃にはインフラも整備され、大勢の人が訪れ近くには第一海堡も望める高台で当時を想像して何を思うのだろうか。

今も変わらず打ち寄せる波はどんな歴史を見てきたのだろう。

(NPO法人アクションおっぱま副理事長 河村 啓子)

第三海堡遺構 第2回すかまち景観デザイン賞受賞

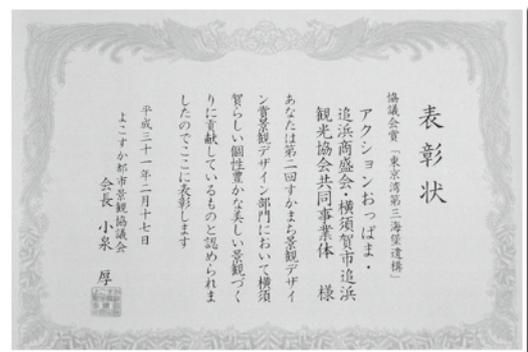
2019年2月17日(日)の第24回都市景観フォーラム(於・ヴェルクよこすか6階ホール)の冒頭に、第2回すかまち景観デザイン賞の授賞式がありました。東京湾第三海堡遺構は協議会賞ということで、「貴重な歴史保存建造物であり、古くからの軍港都市である横須賀の象徴」として「横須賀らしさの演出に寄与している」というのが受賞理由でした。

NPO法人アクションおっぱまは、おっぱまはっけん倶楽部の協力を得て、今後ともこの貴



重な歴史遺産の保存と公開を通じて、多くの方にその価値を知らせる活動を続けて行きます。

(昌子住江)



● 第15回おっぱまワイン寄席開催

何かと気候不順の今年の春でしたが、幸い天気にも恵まれた4月9日(火)、追浜コミュニティセンター北館3階集会室を会場に、第15回おっぱまワイン寄席が開催されました(後援・追浜地域運営協議会、協賛・追浜商盛会)。

出演は、おなじみの柳家喬太郎師匠と、この秋に真打昇進を控えた二つ目の柳家喬の字さんの二人で、演目は「蝦蟇の油」「品川心中」(以上喬太郎師匠)「まんじゅうこわい」「風呂敷」(以上喬の字さん)の落語4席。いつもながら喬太郎師匠の名演に加えて、喬の字さんの若々しい熱演で、会場を埋めたの観客の皆様は爆笑に次ぐ爆笑でした。

なお、本日の演目は喬太郎師匠の直筆です。

(昌子住江)

本日の演目

- ーまんじゅうこわい 喬の字
- ー蟇の油 喬太郎
- 仲のり
- ー風呂敷 喬の字
- ー品川心中 喬太郎



● 「子どものおやつを手作りしてみよう」ーオパイルママと一緒に料理ー



日時 2019年4月14日(日) 13時半～
会場 おっぱまのま

追浜には子育て世代の人口が急増している。工場地域が広く労働人口も多い追浜の商店街はサラリーマン向けの店舗が多く、子供連れで利用できる店舗がないとの意見が出ている。

オパイルメンバーのアンケートには子育て世代に街での居場所がなく地域の情報も得にくい、との結果が多数出ている。情報を得たNPO法人が地域活動の支援としてきっかけづくりにイベントを開催した。

なお、「オパイル」は「追浜+パパママ+スマイル」Oppapamamaile の略で、追浜エリアで子育て中

のママたちの活動サークルで、2018年3月に立ち上げてから、活発に活動している。

会員の吉野さんより紹介されたのは、「栄養改善を拡げる仲間の会」として地域で活動している管理栄養士のみなさん。普段どちらかというと高齢者の栄養改善が活動の中心ですが、子供のおやつに目を向けたというママたちの思いが結びついた。

会場は「おっぱまのま」(追浜南町1丁目)で関東学院大学空き家プロジェクトによる改修ののち、コミュニティスペースとして活用が始まっている。指導された関東学院大学の兼子先生はご家族で参加された。

わいわいがやがや、泣く子もいれば屋外に出る子もいて、でもママたちは講師の話を熱心に聞き質問、相談をしていた。次回も是非との意見があり、このネットワークが頼もしく思われた。(河村 啓子)



● 国連 世界の未来を変えるための 17 の目標 ～ SDGs について～

SDGsをご存知ですか。2015年9月に国連サミットで採択したものです。持続可能な開発と訳されていますが私たちもこの17の目標に関心をもってみませんか。下記に17のゴールを載せておきます。

追浜も実は持続可能なまちを目指して皆でまちづくりを進めているところではないでしょうか。例えば目標11は「都市と人間の居住地を包括的、安全、レジリエント(強靱)かつ持続可能にする」という目標です。追浜らしい持続可能な都市とはということを検討してみたいですね

何だか英語でとっつきにくいという方には最近子どもたちも塾などで教わっていると聞くと自分も勉強してみようかなと思うようです。(NPO法人アクションおっぱま理事 吉田洋子)

参考書

国連 世界の未来を変えるための 17 の目標
SDGs 2030年までのゴール
発行：日能研 発売：みくに出版
定価：本体 1,000円 + 税



● ら・ぶ・いん おっぱま ●

15年前まで東京の会社に通う通勤族だったころは私にとって追浜は通りすぎるだけの知らない町だった。朝は7時前にシャッターおりてる町を通過して追浜駅へ夜は遅くなって寝静まった町を通過して家にと、家と駅以外のことは何も意識になかった。

会社やめて家でぶらついてる時、たまたま知り合ったTさんから地元で追浜ワインという名前の地ワインを手作りでやってるグループがあるんですよ一緒にやりませんかと誘われたのが切っ掛けで多少なりとも追浜の町を知るようになった。はじめは単純にワインを飲むのではなく「作る」ことが面白いなと思って参加しただけだったが、一緒にやるメンバーが商店街のおやじさん、元サラリーマン、元公務員と色々な経歴の人がいて、仕込みから瓶詰め、打栓、ラベル貼りなど色々な工程をすべて手作業で共同作業していてそこから自然に感じる仲間意識というものに惹かれていった記憶がある。それからワイン作りは手段であって町の活性化・町興しが目的なんだと作業のあとで一杯飲みながらの話から意識が生まれ、それがはっきり町興しを目的

にしたNPO法人アクションおっぱまという組織に生まれ変わってほぼ10年になるが我ながら自然にそんな流れの中で動き回ってきた感じがしている。

また、おっぱまはっけん倶楽部という追浜の歴史を勉強し町興しにつながる地域イベントにも参加しているグループがあるが、そのメンバーにもなってこちらも10年になる。毎年正月にやる追浜七福神めぐりやら追浜の郊外にある第三海堡遺構展示場のガイド、秋に行う秋祭りYフェスタでの追浜ふるさと写真展の開催やら色んなところで仲間つきあいをしてきた。

今になって気がつけばいつのまにか追浜というキーワードの下で仲間とわいわいやりながら、ささやかながら町の一員になっている自分がいるような気がする。昔は通りすぎるだけの町だったのに今はしっかりこの町に住んでいるという実感がある。



(NPO法人アクションおっぱま理事 村澤 諄治)

東京湾第三海堡構造物 神奈川県指定重要文化財指定記念 NPO法人アクションおっぱま設立10周年記念
講演会「“海堡”って何？～東京湾の秘められた人工島～」開催報告

第三海堡遺構の神奈川県指定重要文化財指定と第二海堡の上陸ツアー開始を機に、あらためて東京湾海堡の歴史的、技術的価値を認識するための講演会「“海堡”って何？～東京湾海堡の秘められた人工島」を11月25日(日)に開催しました。会場の追浜コミュニティセンター4階集会室には80名が来場し、3人の講師、高橋悦子さん(東京湾海堡ファンクラブ事務局長)「人工島建設の黎明—明治から大正期」、真島秀行さん(お茶の水女子大学名誉教授)「東京湾海堡建設の功労者 西田明則と和算」、岡田昌彰さん(近畿大学理工学部社会環境工学科教授)「東京湾海堡の景観的意義」の講演に耳を傾けていました。

講演後のアンケートでは、回答者の67%が「分かりやすかった」と回答し、第二海堡上陸ツアーや貝



山地下壕一般公開には、ほとんどが、ぜひ参加したい、参加したいとの回答で、関心の高さを再認識しました。この講演会は、NPO法人アクションおっぱま設立10周年記念の事業でもありましたが、この間の活動の浸透を確認するとともに、さらに普及を図る必要も痛感しました。(昌子住江)

第三海堡看板設置

夏島緑地とうみかぜ公園の第三海堡遺構展示場に新たに案内看板が設置されました。以前より横須賀市に働きかけていましたが、ようやく設置され来場された方たちも興味深く読んでいます。(河村啓子)



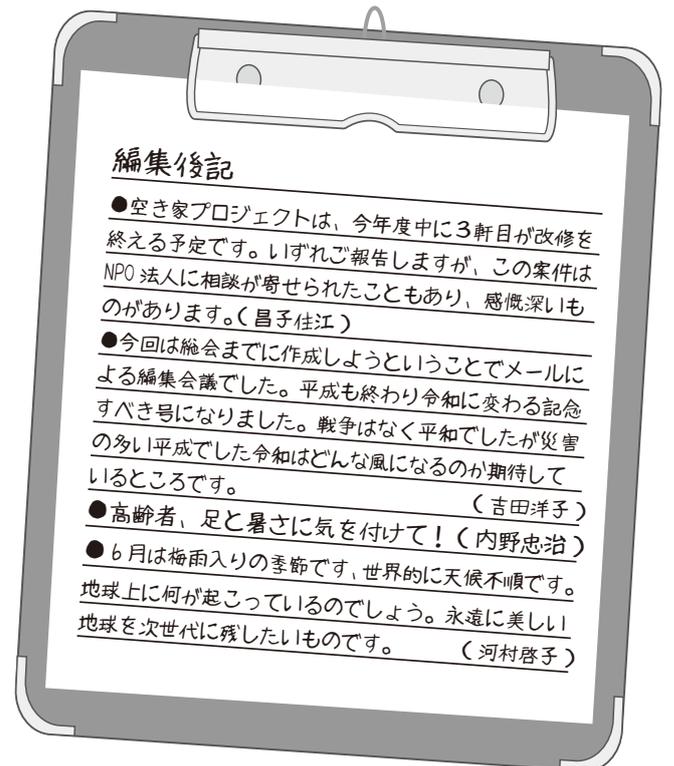
貝山地下壕一般公開の延期について

貝山地下壕の一般公開については、横須賀市より2019年度中(2020年3月まで)に改修を終えて公開の予定との話があり、公開のありかたについて追浜地域運営協議会の関連部会において、当法人の有志も地元関係者として横須賀市との協議に参加しておりました。

しかしながら、横須賀市側から2019年度予算編成上の制約から改修が見送られ、ガイド養成のみ先行して進めることになったと、2018年度末の部会で説明がありました。

従いまして、貝山地下壕一般公開は、2020年度以降に延期となったことをご報告します。(昌子住江)

追浜あんず通信 17号 2019年6月発行
 発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま
 発行人 昌子住江
 編集 NPO法人アクションおっぱま編集委員会



編集後記

- 空き家プロジェクトは、今年度中に3軒目が改修を終える予定です。いずれご報告しますが、この案件はNPO法人に相談が寄せられたこともあり、感慨深いものがあります。(昌子住江)
- 今回は総会までに作成しようということでメールによる編集会議でした。平成も終わり令和に変わる記念すべき号になりました。戦争はなく平和でしたが災害の多い平成でした令和はどんな風になるのが期待しているところですよ。(吉田洋子)
- 高齢者、足と暑さに気を付けて!(内野忠治)
- 6月は梅雨入りの季節です、世界的に天候不順です。地球上に何が起きているのでしょうか。永遠に美しい地球を次世代に残したいものです。(河村啓子)